

## II. 実践研究の報告

### 8. 吉田保育所（島根県 益田市）

#### 1. 研究テーマ

過疎地・小規模保育所における延長保育・一時保育のありかたを考える

#### 2. 保育所名

社会福祉法人ほほえみ福祉会 吉田保育所

社会福祉法人西益田福祉会 神田保育園

#### 3. 研究代表者

吉田保育所 所長 杉原幸江

#### 4. 保育園の所在地

吉田保育所 島根県益田市水分町 7-50

神田保育園 島根県益田市神田町イ 173

#### 5. 定員数・入所児童数

吉田保育所 定員：60名 入所児童数：73名（平成16年12月1日現在）

神田保育園 定員：45名 入所児童数：47名（平成16年12月1日現在）

#### 6. 沿革

吉田保育所と神田保育園が所在する益田市は、島根県の西の端にあります。平成16年11月1日、近隣する美濃郡匹見町・美都町と合併して、人口5万4千、面積733km<sup>2</sup>の市となりました。海に面しながらも山間部が広がる、過疎化と高齢化が進む市です。

面積の広い益田市には認可保育所が30ヶ所あり、そのほとんどが小規模で、一法人一施設運営の保育所です。過疎化の上に少子化が進み、市内の保育所の多くはその存続のために、特別保育補助事業や自主事業などに各々積極的に取り組んでいます。

##### (i) 吉田保育所

吉田保育所は平成14年度まで公立（益田市立）の保育所でした。市の行財政改革の一環として民営化され、平成15年4月1日から私立の保育所としてスタートしました。運営している社会福祉法人ほほえみ福祉会は、吉田保育所の民営化にあたり、益田市保育研究会の所長メンバーの協力によって新たに設立された法人です。

他の保育所で10年以上の経験を持つ職員から新卒の保育士や栄養士まで、約20名の保育士と栄養士が“愛いっぱい保育をほほえみのなかで”を合言葉に、笑顔と元気いっぱいの保育を心がけています。

##### (ii) 神田保育園

吉田保育所が益田市の中心部にあるのに対し、神田保育園は益田市の西南端、お隣の鹿足郡との境界に近い中山間地域に所在する保育園です。昭和51年、社会福

社法人神田保育園（後に西益田福社会と改名）によって定員 45 名で開設された認可保育所です。山と川、田畑に囲まれたのどかな環境のなかで、地域の人々に親しまれ支えられながら、小規模ならではの家庭的な雰囲気を大切に、きめ細かであったかい保育を心がけています。

延長保育・一時保育を始めた動機とこれまでの経過

(i) 存続の危機から（神田保育園）

現在、吉田保育所の所長を務める私は、平成 15 年度まで神田保育園の園長を務めていました。私が園長に就任した平成 8 年度当時、定員 30 名の神田保育園の園児は、わずか 19 名でした。開設時の定員が 45 名であったにもかかわらず、過疎化とともに園児が減少し、昭和 60 年に定員を 30 名に変更した後もさらに減り続けている状況でした。

この保育園が存続できるのはあと 10 年か、もしかしたらあと 5 年で終わりかもしれない。そんな危機感を持ちながら、「少人数の園児だからこそ一人ひとりを大切に、誠意ある保育を提供しよう」「たとえ園児がいなくなったとしても、この地域にはこの施設が必要だと思われるよう、園児だけでなく地域の子どもたちや高齢者にも喜ばれる事業を実施しよう」と様々な事業に取り組みました。

一時保育は、私が園長に就任する前の年、平成 7 年度から取り組んでいました。パート勤務やリフレッシュのための利用が多く、一時保育を利用した後に入園を希望されたお子さんも少なくありません。

平成 8 年度からは『げんきクラブ』と称して、下校後や土曜日、夏・冬・春休み中の学童の受け入れを始めました。園児と小学生との交流を図ることと同時に、小学生の仲間作りの場、遊びの場を提供すること、さらに、学童保育施設のない小学校区であったため、学童保育としても利用していただきました。

平成 9 年度から延長保育を始めました。初年度の利用者は日々わずか 1 名です。たった一人でも寂しさを感じることなく、お迎えが来られるまで保育者と楽しく過ごせる延長保育を心がけました。

地域活動事業のひとつとして年 2～3 回実施していた高齢者との交流は、平成 9 年度から「おじいちゃん・おばちゃんの日」と称して、毎月 1 回の開催にしました。野菜の栽培やもちつき会などの行事を園児と一緒に楽しんでいただいています。同じく平成 9 年度から保育所開放にも取り組みました。在宅で育児をしている親子を誘って保育所に遊びにきていただく「ひよこちゃんの日」を設け、毎月 1 回発行の「ひよこちゃん新聞」で子育て情報を伝えています。

存続の危機を感じながら、わずかでも在籍する園児への最善の保育を心がけ、地域の子どもたち、地域の人々に役立つ施設であり続けたいと思って取り組みを始めた特別保育事業ですが、気がついてみると、増えるはずがないと思っていた園児が増えていました。地域の人口も子どもの数も減り続けているのですが、市

外を含め 遠方から時間をかけて通園して下さるようになったのです。

こうして平成 8 年度当初 19 名しかいなかった園児は、平成 11 年度中には定員をオーバーして途中入所をお断りしなくてはならないほどになり、平成 13 年 4 月に定員を 40 名に変更。さらに平成 15 年 3 月、定員を 45 名に変更する手続きをした後、私は現在の職場、吉田保育所に移りました。私の後任には、当時 32 才だった主任が園長に就任しましたが、その後も園児は増え続け、平成 16 年度中には 50 名を超える見込みです。

#### (ii) 公立から私立へ（吉田保育所）

平成 15 年 4 月、益田市唯一の公立保育所が民営化されました。民営化されることに対しては保護者からの強い反対がありました。民営化の方針が示されてから決定されるまでの期間が短いこと、慣れ親しんだ保育士さん達がみんななくなること、新しい法人がどんな運営をし、どんな職員が来るのか分からないということなど、保護者にしてみれば不安だらけで反対をして当然の状況でした。だからこそ、この民営化を子どもと親にとって、更に益田市民にとって、よかった！と思える結果にすることが私たちの役割だと思いました。

公立の時には 30 分延長だった延長保育は 1 時間の延長保育にしました。一時保育は公立の時から実施されていましたが、更にきめの細かい一時保育を心がけています。半日保育だった土曜日を一日保育にし、休日保育を開始しました。近くに公立の子育て支援センターがあるのですが月曜日は休館です。そのため、月曜日を「ほほえみサロン」と称して開放日とし、子育て中の親子に遊びに来ていただいています。

強い反対運動をされていた保護者も徐々に新しい職員に慣れ、法人の運営に理解を示し始めてくださるようになり、互いの信頼関係ができてきました。

吉田保育所における特別保育事業は、私立保育所ならではの柔軟な事業展開の良さを保護者に実感していただくこと、民営化のメリットを多くの市民に分かっていただくことからスタートしました。保育の質の良し悪しを分ってもらうには時間がかかりますが、一時保育や延長保育は、そのサービスの良し悪しが目に見えて分かりやすいのです。

## 7. 研究の目的・概要

過疎地には子どもが少なく保育所運営が難しいというデメリットがありますが、個々の家庭状況などを把握しやすく、一人ひとりに応じた保育ができるというメリットもあります。また人口が少ないですから、「いつでも誰でもどうぞ」と気軽に声をかけることもできます。

小規模保育所は各年齢の園児数が少ないので、園内の異年齢児交流は日常的にできますし、一時保育児や学童ともクラスの中で一緒に過ごすことができます。

別の部屋を設けなくても実施することができるのです。

そのような過疎地・小規模保育所の特性を生かして、利用者にとって利用しやすく、職員にとって受け入れやすい延長保育・一時保育のあり方を、利用者の意見や職員の意見を聞きながら、子どもたちの姿をみながら研究してみました。

#### 研究スタッフ

| 氏名    | 所属役職名      |
|-------|------------|
| 杉原 幸江 | 吉田保育所所長    |
| 花房 紀子 | 吉田保育所主任保育士 |
| 俵 麗   | 吉田保育所保育士   |
| 塩満 恭子 | 神田保育園園長    |
| 藤井 初美 | 神田保育園保育士   |
| 水津 史絵 | 神田保育園保育士   |

#### 研究の方法

- (1) 延長保育の実践と研究
- (2) 一時保育の実践と研究
- (3) 子育てに関するアンケートの集計・分析と考察

#### 研究会議の状況等

##### 延長保育の実践と研究

- (1) 実施状況（平成 16 年度：神田保育園）

##### A. 毎月の利用状況

##### B. 利用の理由

- ・就業時間が遅い仕　・通勤先が遠方の　・急な残業のため
- ・交通渋滞で遅くなった　・就業後のわずかな時間でもリフレッシュしたい
- ・出張のため　・上の子や下の子の通院　など

##### C. 利用している子どもの様子

○T ちゃん（2 才児）・・・両親の仕事が毎日遅いため、ほぼ毎日延長保育を利用しています。他の子のお迎えが次々に来られてもまったく寂しがることなく、好きな遊びを保育士と楽しみ、機嫌よく遊んでいます。

○M ちゃん（2 才児）・・・延長保育を初めて利用した日、次々お迎えが来る様子を見ながら、「あと 1 人しかおらんよー」などと寂しがる姿も見られましたが、保育士と 1 対 1 で遊びだすと、お母さんがお迎えに来られても「まだ帰らん。お迎えが早い！」と言うほどになりました。今ではすっかり慣れて、まったく寂しがる様子はみられません。

○E ちゃん（3 才児）・・・母親の急な残業で、時々延長保育を利用していま

す。はじめてのときは寂しがっていましたが、おやつがあるということを知ってからは、お迎えが遅くなってもおやつを楽しみにして、嫌がることはありません。

○Mちゃん(4才児)・・・ほぼ毎日延長保育を利用しています。普段は同年齢の子とばかり遊ぶMちゃんですが、夕方になると、同じように毎日延長保育を利用する2才児のTちゃんと仲良く遊んだり、Tちゃんの面倒をよくみてくれます。

○Nちゃん(10ヶ月)・・・ほとんど毎日早朝に登園し、そして延長保育を利用しています。朝夕の時間帯に勤務する用務員のおばあちゃんが大好きです。夕方出勤してくるおばあちゃんを見るとハイハイでかけより、おばあちゃんに抱かれ機嫌よく過ごしています。

○Kちゃん(6ヶ月)・Oちゃん(3才)のきょうだい・・・たまに延長保育を利用されます。利用の理由はリフレッシュ。具体的には、お仕事の後ご夫婦でパチンコをして来られます。お迎えの前にパチンコなんて！とひんしゅくをかきそうですが、毎日朝早くから一生懸命働いておられる若いお父さんとお母さんです。たまに夕方1時間パチンコをすることで、仕事と育児の疲れが癒され、新鮮な気持ちでお子さんを迎えに来ることができるのならば、あたたかい気持ちで受けとめています。

#### D. 配慮していること

○夕方暗くなっても、子どももお迎えに来られる保護者も寂しい思いをせず、むしろ楽しさを感じることができるように、入り口周辺にイルミネーションをつけています。

○1対1のスキンシップや会話を大切に、少人数だからこそできる家庭的であたたかい雰囲気を心がけています。

○遅い時間にお迎えに来られた保護者に「お仕事お疲れ様でした」の気持ちを込めて、笑顔と元気のよい挨拶で気持ちよく迎えるようにしています。

○急に延長保育を申し込まれても、気持ちよく受け入れています。

○お迎えの時間等によって、個別に間食の量を加減したり内容に配慮しています。

○クラス担任から延長保育担当者への引継ぎを十分に行い、保護者への日中の様子の連絡が確実にできるように気をつけています。

#### E. 懇談会の開催

##### (i) 吉田保育所

延長保育について考えているうちに、これまで保護者の意見を聞く機会がなかったことに気付きました。クラス懇談会などで保育や給食についての意見を聞く機会は設けてきましたが、延長保育利用者を対象にした懇談会

を設けたことはありませんでした。

そこで、延長保育の利用者や延長保育に関心のある方を誘って『ほほえみ懇談会』を開催しました。平日夕刻からの開催ですし、参加者はお仕事の忙しい方ばかりですから、参加される保護者にもお子さんにも夕食を用意しました。

吉田保育所『ほほえみ懇談会』

テーマ “子育てを楽しくするために”～利用しやすい延長保育は・・・～

日 時 平成16年11月19日(金)(PM6:30～8:30)

参加者 保護者 10名 (母親8名・父親2名)

職 員 6名 (所長・主任保育士・保育士2名・栄養士2名)

内 容 ・延長保育時の間食メニュー案を見てもらう

・懇談会の趣旨説明

・夕食をとりながら懇談

間食のメニュー案として用意した、おにぎり・豚汁・パウンドケーキなどを見ていただきながら、参加者の方々から様々な意見をいただきました。

・家に帰ってもすぐに食事の用意ができないから、間食メニューはおにぎりがいいです。

・おにぎりの大きさは小さめがいいです。年齢の低い子は手にもちやすく食べやすいから。

・パンなどもいいです。主食になるものがないのではないのでしょうか。炭水化物系を園でとって帰れば、家ではおかずをたくさん食べればいいですから。

・子どもが一人に残っていると思うと、仕事が残っていても、早く迎えに行こう と思ってしまいます。

「子ども達に寂しい思いをさせない保育を心掛けるよう、日頃から話し合っているんですよ」とお話ししました。

・先生たちにも家庭があるので、できるだけ早く行こうと思っています。

「職員はローテーション勤務をしています。遅くまで勤務する職員は遅い時間に出勤していますし、いつも同じ職員が遅くまで残っているわけではないので、気にされなくても大丈夫ですよ。」と説明しました。

・延長の料金がいくらだったかしらと、利用したあとで不安になりました。

・毎月のおたよりに延長保育料金を記入しておく、分かりやすくてよいのでないでしょうか。

などのご意見をいただき、できることから実践しましょうとお答えしました。

その他にも、子ども達の食事についての不安や悩み、小学校入学後の学童保育の不安などで話が尽きませんでした。

(ii)神田保育園

神田保育園では、クラス懇談会を開催して延長保育についての意見をお聞きしました。

<H.16.11.20 クラス懇談会（年少・年中児）PM2：00～>

- ・家でのおやつはお菓子が多いです。
- ・夕方の時間は祖父母にみてもらっているので、子どもが何を食べているかわからない。
- ・帰宅後のおやつは冷凍おにぎりを食べさせたりする。
- ・延長保育を利用しないといけない日（仕事で遅くなった日）は、帰ってすぐに食べられる物を買って帰るので、あまりお腹がいっぱいになるものではない方がいいです。
- ・おやつでお腹がいっぱいになり、帰宅してからご飯を食べないです。しかし、寝る前に空腹になり何か食べたがるので、間食はご飯よりお菓子の方が良いです。

<H.16.11.27 クラス懇談会（0才児）PM2：00～>

- ・園で食べさせてもらっているので、帰ってから食事を急ぐ必要がなくていいです。

<H.16.11.29 クラス懇談会（年長）PM7：00～>

- ・延長保育を利用した時は、おやつを食べているので、夕食がすすまないです。普段の帰宅後は、おやつを一切与えていないので。
- ・自宅でのおやつは、パンやおむすびにしています。

<H.16.12.11 クラス懇談会（1・2才児）PM2：00～>

- ・お迎え時間が急に遅くなっても快く対応してくれるので、とても助かっています。
- ・家に帰ってからもすぐに食事はできないので、園で少しでも食べていると助かります。
- ・普段利用していないけれど、延長保育があるというのはとても安心感があります。

担当職員の意見

- 年々利用者が増えていて、延長保育の必要性を実感しています。
- 今は利用してなくても、困った時にはいつでも利用できるという安心感が大事だと思います。
- 料金の問い合わせがよくあるので、利用者にわかりやすいお知らせの方法を考える必要があると思います。

○きちんとしたローテーション勤務を行い、長時間勤務にならないよう、同

じ職員が何度も延長保育担当にならないようにして、職員一人ひとりの負担が大きくなるようにする必要があります。

○利用者の意見を聞く機会を作り、ニーズに応じた延長保育を行いたいです。  
一時保育の実践と研究

(1) 実施状況（平成 16 年度：吉田保育所）

A. 毎月の利用状況

B. 利用の理由

○非定型的保育サービス

- ・パート勤務
- ・ハローワークに通うため
- ・他の保育所に在籍していて、その保育所の休園日（年度末など）に利用する

○緊急保育サービス

- ・出産
- ・冠婚葬祭
- ・通院

○私的理由による保育サービス

- ・リフレッシュ
- ・親の里帰り
- ・上のお子さんの参観日や入学式
- ・ひっこし
- ・日頃子守をしてきている祖母が外出するため

C. 利用している子どもの様子

○Y ちゃん（2 才）・・・転勤で益田市に来られました。お母さんはお子さんの発育について、言葉の発達が遅いのではないか、集団に溶け込むことができないのではないかという不安と、上のお子さんの学校行事のときに預けるところがなくて困っておられたようです。思い切ってほほえみサロンに参加したところ、お子さんが喜んで遊ぶ姿をみる事ができたので、こんな広い場所で友達と関わり合えるならと一時保育利用の利用を始められました。Y ちゃんは初日から泣くこともなく、お友達や保育士と一緒にのびのびと遊んでいます。

○H ちゃん（1 才）・・・母親がパート勤務の為、月 12 日程度の利用をされています。毎日の利用ではないため、登所時に少し涙が出ることもありますが、遊び始め

ると笑顔も多く見られ、歌声やおしゃべりもたくさん聞くことができます。

○I ちゃん（2 才）・・・姉 2 人は幼稚園に通う三人きょうだいの末っ子。母親はパート勤務で、時々一時保育を利用されます。すんなり保育所にも慣れ、大好きな砂あそびを服の汚れも気にせずに楽しんでます。

○S ちゃん（1 才）・・・映画会に参加した時の託児スタッフが吉田保育所の保育士だったそうです。そのときの対応や雰囲気がとてもよかったということで「ほほえみサロン」に参加されるようになりました。「ほほえみサロン」では、初めての参加にもかかわらず広い園庭で滑り台や押し車を楽し

むお子さんの姿を見て、お母さんはすっかり安心されました。また、同年齢の子どもたちと一緒に給食をとることで、家庭での不安や疑問（手づかみでいいのか？どのくらい 他の子は食べるのだろう）が少しずつ解消されたようです。

その後、「ほほえみ懇談会」にお誘いしたところ喜んで参加され、一時保育を利用されている方の話を聞いて安心し、一時保育を利用されるようになりました。主に土曜日、リフレッシュを目的に利用されています。

#### D. 配慮していること

○事前に面接に来ていただくようお願いし、お子さんの日頃の様子、親の希望や 悩み等を聞いて面接シートに記録しています。

○「ほほえみサロン」に参加するなどして、一時保育の利用までに半日程度は親子で保育所生活を体験していただくようお勧めしています。お子さんは保育所の雰囲気や保育士に慣れることができますし、親はお子さんが保育所でどんなふうにご過ごすのかが分かるので、親子とも安心して一時保育を利用することができます。

○連絡帳でお子さんの様子を詳しく伝えるようにしています。初めての利用などで親の心配が強いときには、デジカメで保育中のお子さんの姿を撮り、帰りに お渡しするようにしています。

○面接シートや保護者の事前の話を参考にしながら、また、慣れない所に一時的に預けられる子どもの不安な気持ちを受けとめて、一人一人のペースに合わせて、 ゆったりとした雰囲気がかかわるようにしています。

○お迎えの際は、お子さんの様子をできるだけ詳しく伝え、安心できるような言葉かけを心がけています。

○一時保育担当者だけでなく、全職員が一時保育の意義を理解し、同じ気持ちで 一時保育の子ども、保護者にかかわるように気をつけています。

#### E. 懇談会の開催

吉田保育所『ほほえみ懇談会』

テーマ “子育てを楽しくするために” ～利用しやすい一時保育は・・・～

日 時 平成 16 年 11 月 25 日（木）（PM6：30～8：45）

参加者 保護者 12 名 （母親 8 名・父親 4 名）

職 員 3 名 （所長・主任保育士・保育士）

アドバイザー （臨床心理士 1 名）

内 容 ・懇談会の趣旨説明

・夕食をとりながら懇談

懇談会の趣旨説明の後、アドバイザーとして来ていただいた山口大学保健管理センターの臨床心理士さんを紹介しました。参加者は一時保育の利用

者ですから初対面の方もいらっしゃいますし、初めて保育所に来られたお父さんもいらっしゃいますから、参加者の自己紹介を行いました。自己紹介と一緒にそれぞれの子育ての状況もお話しいただき、その後、食事の話やテレビの話などで盛り上がりました。懇談内容の一部を紹介します。

- ・下の子の出産の為一時保育利用をしています。利用することで日々を充実させることができました。
  - ・最近利用を始めたようです。おかげで、家庭も円満でいいです。(父親)
  - ・7月から「ほほえみサロン」を利用し、雰囲気が良いと話してくれています。(父親)
  - ・「ほほえみサロン」と一時保育を利用しています。いつでもどうぞと受け入れてくれるので嬉しいです。
  - ・一時保育を利用していましたが、最近入所しました。家庭にいるか復職するか悩んだ結果、仕事を選びました。保育園には集団生活のよさがあると思います。仕事を終え迎えに来てわが子を見た時、あらためて抱きしめたくなり、この生活の方が自分にはあっていると思いました。
  - ・連絡帳には“よく食べました”と書いてあります。家ではあまり食べないのに、保育所ではよく食べているようで嬉しいです。連絡帳を見るのが楽しみです。
  - ・連絡帳に様子を書いてもらうと安心します。また、サロンなどで他の子を見るのもおもしろいし、勉強になります。
  - ・食べ物には気を付けています。よそのお家に遊びに行った時、家では食べさせていないおやつなど出てきて、食べさせたくないときもあります。
  - ・チョコレートやあめは食べさせないようにしていました。食べたことがないので欲しいとも言わなかったのですが、主人が飴を食べさせてからは、主人を見ると「飴ちょうだい」と言うようになりました。出来る限り甘い物は抑えています。
  - ・上の子のお友達がスナック菓子を持ってくるため、下の子も食べるようになってしまいました。
  - ・甘いおやつは食べさせないよう気をつけていたのに、おばあちゃんの家に行って食べてしまいました。このような食事やおやつに関する悩みは多いようですが、アドバイザーからは「自分で制限できる範囲で大丈夫」「食事は楽しいのが一番」などとアドバイスをいただきました。
- また、
- ・家事をする時にテレビを見せています。2歳まではテレビを見せないほうがいいと聞くのですが、どうなのでしょう？
  - ・食事中は音楽を流して、テレビは消すようにしています。

- ・私もテレビに頼ります。一緒に見てしまいます。

など、テレビについての不安も出ました。アドバイザーからは、「絶対いけないというのではなく、家事をする時は忙しくて大変なんだからテレビを利用して、後でしっかりスキンシップを取ったり、お話ししたりすればいいですよ。自分を追い詰めていかないようにね。」とアドバイスしていただきました。

一時保育についてというよりは、育児全般についての懇談になりましたが、在宅で子育てをしている方々にとっては、いろいろな人とこのような話をする場が必要だということを実感しました。

#### F. 担当職員の意見

○急な一時保育利用の場合、保護者との面談時間が十分取れないこともあります。特に乳児の場合、月齢に比べて離乳が進んでいないことも多く、食事準備に戸惑うことがあります。

○誕生会などの行事への参加を喜んでいただきました。参加人数が多くなって担当者は大変ですが、継続していきたいと思っています。

○入所児と一緒に遊び生活するため、一時保育担当職員と他の保育士との連携を密にする必要があります。

保護者アンケート（子育てに関するアンケート）の集計と分析・考察

##### (i) 吉田保育所

回答者の95%が女性です。保護者は30歳代が一番多く、次いで20歳代です。父親の仕事はフルタイムがほとんどですが、母親にはパートタイムの方が半数近くいらっしゃいます。そのため、延長保育の利用が少ないということが分かります。

育児についての相談を保育所にしたことがあるという方は残念ながら半数程です。民営化してまだ2年目ということも影響していると思いますが、気軽に相談していただけるような配慮・工夫が必要だと思いました。

子育てへの社会の関わりについては、「近所付き合いなどの人間関係が子育てには必要である」「福祉制度などを中心に、社会が幅広くサービスを提供すべきである」と感じている方が多いです。

子育てについてどのように考えていますかという問に対して、楽しみや喜びを感じる方が45人中28人、生きがいを感じる方が4人、義務や責任を感じる方が7人、そして負担や苦勞を感じる方が2人いらっしゃいました。自由記述欄には「親に精神的・肉体的ゆとりがないと子育てを楽しむことができない」などの意見があります。また通常の保育を利用している方よりも、一時保育利用者の方が悩みや意見をたくさん書いておられます。話をする相手、話をする場を求めておられるようです。

## (ii) 神田保育園

回答者は100%女性です。保護者はやはり30歳代が一番多く、次いで20歳代です。神田保育園では父親のほとんどが、また母親も60%以上がフルタイムのお仕事です。職場からの距離が離れている方が多く、延長保育は三分の一近い方が利用されています。

育児について保育園に相談したことがある方は32人中22人でした。送迎時に相談されている方が多いです。

子育てへの社会のかかわりについての意見は、吉田保育所同様に「近所付き合いなどの人間関係が子育てには必要である」「福祉制度などを中心に、社会が幅広くサービスを提供すべきである」と感じている方が多いです。子育てについてどのように考えていますかという問いに対しては、楽しみや喜びを感じる方が32人中20人、生きがいを感じる方が5人、義務や責任を感じる方が3人、そして負担や苦勞を感じる方が2人いらっしゃいました。自由記述欄には「長い目で子育てをと思いつつもイライラすることがあるが、保育園の先生や友人と話をすることで解決させています」とあり、やはり話をする相手と場が必要だということを感じますし、保育所が果たせる役割の大きさも感じます。

## 今後の課題と展望

### (i) 延長保育

○核家族化と母親のフルタイム就労が増えるのに伴い、延長保育の必要性も高まってきました。利用したいときにいつでも気軽に利用できるシステムや雰囲気作りが課題だと感じます。

○どの職員が担当しても、遅く来られた保護者をあたたかい気持ちで迎えることができるよう、延長保育に対する職員の意識統一のための研修や話し合い等が必要です。

○間食について、吉田保育所と神田保育園とでは親のニーズが異なりました。吉田保育所では懇談会で希望の多かったおにぎりを出すようにしました。好評です。

### (ii) 一時保育

○乳児の一時保育利用が増えてきています。それにともない、個別に健康管理や離乳の進み具合などを把握することが重要となっています。保育士と栄養士間での情報の共有が課題です。

○一時保育児の保護者のなかには、どこか遠慮がちで気兼ねをされている方も見受けられます。“たまに来る子や急にきた子を、保育士は歓迎してくれるのだろうか、優しく接してくれるのだろうか”という不安があるのではないかと思います。保育士があたたかく受け入れる気持ちをもつことと、ゆ

とりをもって受け入れることのできる職員体制を整えることが必要だと思います。

(iii) どちらにも共通して

○利用したいと思っても、どこの保育所でどのような延長保育や一時保育をしているか、保育所を利用したことの無い保護者には分かりにくいようです。PRの内容や方法を検討する必要があります。

○利用者のニーズは個々に違います。ゆっくり時間をかけて話をしないと出てこない悩みやニーズもあります。意見を聞く場、懇談の場を設けるなどして、年度ごとに利用者個別のニーズを把握し対応していくことで、利用者に満足され喜ばれる事業になると思います。

おわりに

過疎地・小規模保育所の運営はきわめて不安定です。次年度の園児数が何人になるのか、定員を満たすことができるのかどうか、毎年ひやひやするのです。一時保育や延長保育事業をしても、利用者は1人あるか、もしかしたら全く無いかもしれないのです。補助金をいただいたとしても、人件費の方がかさみます。採算を考えると、そんな事業には取り組めません。

しかし、そうして地方が子育てしづらく住みにくい地域になっていくことが、私は残念でなりません。山に登り、川で遊び、土に親しみ、地域の人々と関わりながら育つことが、子どもたちの心をどれだけ豊かにし、子どもたちの体をどれだけ逞しくすることか。こんな素敵な環境があるのに子どもが減っていくなんて、もったいないと思うのです。

どんなに小さな保育所でも、どんなに少ない園児でも、工夫次第でできることはいっぱいあると思います。いえ、小さいからこそ、少ないからこそ、できることがあるはずです。

その地域に合った、その地域の親と子のニーズに応じた延長保育や一時保育のスタイルがあると思います。ニーズは必ずしも表に出てはいません。地方には奥ゆかしい人も多いですから尚更のこと、隠れたニーズがたくさんあると思います。そのニーズを掘り起こすことから始めなければならないと思います。過疎地だからこそ、小規模だからこそ、延長保育も一時保育も取り組む価値がある、取り組む意義があると思っています。田舎で子育てをすることのよさ、田舎で育つことのよさを、親にも子どもたちにも実感してもらいたいと思っています。もちろんその前に、私たち保育者が、その良さを確信しなければならないでしょう。